



男性乳がん

(だんせいにゅうがん)



※内容を簡素に記載しております。詳しくは HP をご覧ください。

男性乳がんについて

乳がんは一般的に女性に多い疾患ですが、男性の乳房に発生すること（男性乳がん）もあり、乳がん全体の約 1%を占めるといわれています。米国のデータでは、女性が生涯を通じて、8 人に 1 人乳がんにかかるのに対して、男性では生涯を通じて 1000 人に 1 人が乳がんにかかるとされています。あらゆる年齢の男性に発生しますが、発症者が多いのは 60～70 代の年代です。自覚症状としては、乳輪の後部にしこり（腫瘤）（痛みを伴わないことが多い）の出現、乳頭からの出血、皮膚潰瘍、触知可能な腋のしこり（腋窩リンパ節腫脹）などがあります。

危険因子

乳がんになったことがある近親者（性別問わない）が 1 人以上いる男性では、そうではない男性と比較して、乳がんを発症する危険性は 2 倍になります。また、胸部や乳房に放射線療法を受けたことがあることや、何らかの理由で体内の女性ホルモンの量が多いこと（クラインフェルター症候群・肝硬変など）も危険因子となります。

検査と診断について

乳がんを疑うような症状を認めた場合は、必要に応じて乳房の画像検査を行います。例えば、触知不可能な腫瘤を有する 25 歳未満の男性の場合、最初の検査として超音波検査がよく行われます。また、25 歳以上の男性や身体診察で疑わしい所見がある場合は最初の診断検査としてマンモグラフィが推奨され、次に超音波検査でより詳しい検査を行います。

治療について

男性乳がんに対する治療の考え方は基本的に女性乳がんと同じです。乳がんの病期に準じて、治療法を選択します。

完全切除が可能な病期であれば、外科手術を行うことが優先され、さらに病状に応じて術前又は術後の薬物療法（抗がん剤やホルモン治療など）、放射線治療などを組み合わせて治療を行います。

ホルモン治療については、男性と女性では体内でのホルモン産生の仕組みが異なるため、男性乳がんの場合は、女性乳がんとは治療選択肢が異なる場合があります。

